



「上がった！上がった！僕の書き初め」

1/15 そのべ“とんどまつり”

広報
なんたん

もくじ

- 2 心を新たに市の発展を誓う -南丹市合併一周年記念式典を開催-
- 8 地域ぐるみで子どもを虐待から守る -南丹市児童虐待防止ネットワーク設立-
- 10 行政トピックス 南丹市消防団出初式、南丹市成人式 ほか
- 22 なんたん歳時記 ~そのべ“とんどまつり”~

2月号

2007年 Vol.14

心を新たに市の発展を誓う

南丹市合併一周年記念式典を開催

昨年一月一日に旧園部町、旧八木町、旧日吉町、旧美山町の合併により、南丹市が発足して一年が経過しました。これを記念して本年一月二十日、南丹市園部公民館で南丹市合併一周年記念式典を行いました。

記念式典は、二部構成で行い、一部では総務大臣代理として幸田雅治総務省消防庁総務課長や京都府知事代理として麻生純副知事、京都府や兵庫、大阪府、福井県の近隣の市町長および議会議長、ま

た南丹市内の各種団体・組織や福祉・医療機関、学校・教育機関、自治功労者、地域の代表者や区長など、約四百人の関係者が出席し、共に南丹市合併一周年を祝いました。式典では、南丹市誕生まで



▲「河鹿合唱団」のハーモニーが式典に華を添えました



▲南丹の歴史を振り返る上田先生の講演

をつづったビデオが上映され、平成十七年三月に行われた合併協定調印式から、平成十八年一月一日の南丹市発足までを映像で振り返りました。

続いて佐々木稔納市長が「市民の皆さまに『合併してよかった』と感じていただける南丹市を築いていきたい」と式辞を述べた後、高橋芳治市





議会議長から「市民の皆さんが安心して暮らせるまちづくりを進めたい」とあいさつがありました。

また、合併功労者総務大臣表彰、合併功労者感謝状贈呈、自治功労者表彰、功績者表彰、善行者表彰の各表彰式を行いました。最後に、昨年創立六十周年を迎えられたアマチュアの混声合唱団「河鹿合唱団」の皆さんが今後の南丹市の発展に願いを込めて「花」や「翼をください」、混声合唱組曲「蔵王」から「早春」の三曲を披露され、式典に華を添えていただきました。

二部では、京都大学名誉教授の上田正昭先生による「南丹の歴史と文化再発見」と題した記念講演を行いました。上田先生は「南丹市は、日本海側の文化と上方（太平洋側）の文化が融合した地域であり、古来から優秀な人物を多く輩出してきている」と、この地域の歴史を語っていただき、会場に訪れた市民の方たちも話に聞き入っていました。

なお、被表彰者は次のお通りです。
(順不同)

市町村合併功労者

総務大臣表彰受賞者

旧園部町、旧八木町、旧日吉町、旧美山町の合併に際し多大な功労のあった七人の皆さんが、総務大臣より表彰されました。



旧日吉町長
仲村 脩さん



旧八木町長
岸上 吉治さん



旧園部町長
野中一二三さん



旧美山町議会議員
柿迫 義昭さん



旧日吉町議会議員
井尻 治さん



旧八木町議会議員
高橋 芳治さん



旧美山町長
中島 三夫さん

自治功労者表彰受賞者

旧町においてそれぞれの分野で、地方自治の発展と振興にご功績のありました十八人の皆さんが、南丹市長より表彰されました。



長野 弘さん
旧美山町議会議員として
多年にわたり地方自治の発展と住民福祉の向上に寄与



磯部清太郎さん
旧美山町議会議員として
多年にわたり地方自治の発展と住民福祉の向上に寄与



柿迫 義昭さん
旧美山町議会議員として
多年にわたり地方自治の発展と住民福祉の向上に寄与



出野 敏さん

旧日吉町議会議員として
多年にわたり地方自治の発展
と住民福祉の向上に寄与



出野 比啓さん

旧日吉町議会議員として
多年にわたり地方自治の発展
と住民福祉の向上に寄与



今井 崇さん

旧美山町議会議員として
多年にわたり地方自治の発展
と住民福祉の向上に寄与



上林 巽さん

旧美山町議会議員として
多年にわたり地方自治の発展
と住民福祉の向上に寄与



高木 茂さん

旧園部町教育長として多年
にわたり教育行政の発展
に寄与



湯浅 照夫さん

旧日吉町議会議員として
多年にわたり地方自治の発展
と住民福祉の向上に寄与



大道 芳夫さん

旧日吉町議会議員として
多年にわたり地方自治の発展
と住民福祉の向上に寄与



船越 嘉次さん

旧日吉町議会議員として
多年にわたり地方自治の発展
と住民福祉の向上に寄与



箱田 博治さん

旧美山町助役および収入役として
多年にわたり地方自治の発展
と住民福祉の向上に寄与



木村 藏さん

旧園部町固定資産評価審査
委員会委員として多年に
わたり行政推進に寄与



廣瀬 輝男さん

旧八木町固定資産評価審査
委員会委員として多年に
わたり行政推進に寄与



上原 正義さん

旧美山町教育長として多年
にわたり教育行政の発展
に寄与



清水 宏さん

旧美山町農業委員および南丹市農業委員
として多年にわたり農家の利益代表者として地域
農業の確立と農業委員会の運営と活動に尽力



西岡 香さん

旧園部町農業委員および南丹市農業委員
として多年にわたり農家の利益代表者として地域
農業の確立と農業委員会の運営と活動に尽力



山口 昭さん

旧日吉町選挙管理委員会委員および南丹市
選挙管理委員会委員として多年にわたり各種選
挙において迅速かつ適正な選挙の執行に尽力

合併功勞者 市長感謝状贈呈

(順不同・敬称略)

- 野中 二三 (旧園部町長)
- 岸上 吉治 (旧八木町長)
- 仲村 脩 (旧日吉町長)
- 中島 三夫 (旧美山町長)
- 奥村 善晴 (旧園部町助役)
- 廣瀬 傳次 (旧八木町助役)
- 浅野 敏昭 (旧日吉町助役)
- 箱田 博治 (旧美山町助役)
- 中川 圭一 (旧園部町議会議長)
- 高橋 芳治 (旧八木町議会議長)



▲合併功勞者に感謝状を贈呈

井尻 治

(旧日吉町議会議長)

柿迫 義昭

(旧美山町議会議長)

村田 憲一

(旧園部町議会議員)

谷 義治

(旧園部町議会議員)

吉見 徳寛

(旧八木町議会議員)

中川 幸朗

(旧八木町議会議員)

吉田 繁治

(旧日吉町議会議員)

出野 敏

(旧日吉町議会議員)

長野 弘

(旧美山町議会議員)

古屋 正雄

(旧美山町議会議員)

田中 博

(学識経験者・園部町)

前田 三子

(学識経験者・園部町)

上野 嘉雄

(学識経験者・園部町)

滝村 尚史

(学識経験者・園部町)

中川 晃

(学識経験者・八木町)

福嶋 利夫

(学識経験者・八木町)

井尻 治

(旧日吉町議会議長)

柿迫 義昭

(旧美山町議会議長)

村田 憲一

(旧園部町議会議員)

谷 義治

(旧園部町議会議員)

吉見 徳寛

(旧八木町議会議員)

中川 幸朗

(旧八木町議会議員)

吉田 繁治

(旧日吉町議会議員)

出野 敏

(旧日吉町議会議員)

長野 弘

(旧美山町議会議員)

古屋 正雄

(旧美山町議会議員)

田中 博

(学識経験者・園部町)

前田 三子

(学識経験者・園部町)

上野 嘉雄

(学識経験者・園部町)

滝村 尚史

(学識経験者・園部町)

中川 晃

(学識経験者・八木町)

福嶋 利夫

(学識経験者・八木町)



▲功績者表彰を受ける園部少年野球クラブ

牧野 修 (学識経験者・美山町)
(旧園部町教育長)

齊藤 進 (旧八木町教育長)

吉川 元治 (旧日吉町教育長)

末武 徹 (旧美山町教育長)

中井 幹晴 (元京都府地方課長)

新田 一郎 (元京都府地方課長)

竹内 啓雄 (元園部振興局長)

西尾和三郎 (元京北振興局長)

井上 忠司 (南丹広域振興局副局長)

廣瀬 吉里 (旧八木町監査委員)

谷口 光一 (旧日吉町監査委員)

園部少年野球クラブ

(第六回パン・パシフィック
中学生軟式野球大会 優勝
スポーツ振興に寄与)

京都府立農芸高等学校

パワーリフティング部

(第二十四回全日本高等学校
パワーリフティング選手権
大会女子団体戦 優勝
スポーツ振興に寄与)

大会女子団体戦 優勝

スポーツ振興に寄与)

大会女子団体戦 優勝

スポーツ振興に寄与)

大会女子団体戦 優勝

スポーツ振興に寄与)

大会女子団体戦 優勝

スポーツ振興に寄与)

大会女子団体戦 優勝

スポーツ振興に寄与)

大会女子団体戦 優勝

スポーツ振興に寄与)

大会女子団体戦 優勝

スポーツ振興に寄与)

大会女子団体戦 優勝

功績者表彰

(順不同・敬称略)

園部少年野球クラブ

(第六回パン・パシフィック
中学生軟式野球大会 優勝
スポーツ振興に寄与)

京都府立農芸高等学校

パワーリフティング部

(第二十四回全日本高等学校
パワーリフティング選手権
大会女子団体戦 優勝
スポーツ振興に寄与)

大会女子団体戦 優勝

スポーツ振興に寄与)

大会女子団体戦 優勝

スポーツ振興に寄与)

大会女子団体戦 優勝



南丹市長
佐々木 稔納

「誇り」と「絆」を

六一六・三一平方^キの広大な面積を擁する南丹市には、豊かな自然環境と地域で培ってきた歴史や、伝統文化、産業などの素晴らしい資源があります。これらのおかげがえない財産を基盤に、市民の皆さまに南丹市民としての誇りをお持ちいただき、みんなの絆を強固なものとして、輝く南丹市の将来を目指していかねばなりません。

また、今まで基幹産業として当地域を支えてきた農林業や豊富な観光資源はもとより、高等教育機関や福祉施設などの地域資源を活用し、新

菅生 桃子

(第二十四回全日本高等学校
バウリフティング選手権
大会女子五十六^キ級 優勝
二〇〇六世界サブジュニア・
バウリフティング選手権
大会女子五十六^キ級第三位
スポーツ振興に寄与)

松本 弘子

(第六回全国障害者スポーツ
大会「のじぎく兵庫大会」
フライングディスク競技
ディスタンスの部 優勝
スポーツ振興に寄与)
筈次 節哉
(多年にわたり学校医として
保健衛生の推進に尽力)

仁丹 良弘

(多年にわたり学校医として
保健衛生の推進に尽力)
吉田 隆夫
(多年にわたり学校医として
保健衛生の推進に尽力)
大萱 清志
(多年にわたり学校医として
保健衛生の推進に尽力)
佐野 求
(多年にわたり学校医として
保健衛生の推進に尽力)

高屋 毅史

(多年にわたり学校歯科医と
して保健衛生の推進に尽力)
山田 正久
(多年にわたり学校歯科医と
して保健衛生の推進に尽力)
阪中 勇一
(多年にわたり学校薬剤師と
して保健衛生の推進に尽力)
人見 和夫
(多年にわたり学校薬剤師と
して保健衛生の推進に尽力)
竹中 隆
(多年にわたり学校薬剤師と
して保健衛生の推進に尽力)

善行者表彰

(順不同・敬称略)

梅田 清

(行政運営に対し多額の寄付)

松本 茂則

(行政運営に対し多額の寄付)

園部ロータリークラブ

会長 松本 豊

(JR園部駅西口ターミナルに

太陽電池式電波時計を寄贈)

園部ライオンズクラブ

会長 廣瀬 健一

(AED(自動体外式除細動器)

を園部中学校、八木中学校、

殿田中学校に寄贈)

▲善行者表彰を受ける梅田清さん



▲園部ロータリークラブから寄贈いただいた時計



▲園部ライオンズクラブから寄贈いただいたAED



子どもを虐待から守る。

命の大切さを考え、子どもが犠牲にならないまちづくりに取り組みます

近年、急増する児童虐待に対し、的確・迅速に対応していくため、南丹市では、昨年十二月二十二日に南丹市要保護児童対策地域協議会（通称：南丹市児童虐待防止ネットワーク）を立ち上げました。

■児童虐待の現状

全国の児童相談所が受けた虐待相談の件数は平成十七年度で約三万四千件あり年々増加しています。京都府でも平成十七年度で二百九十三件（京都児童相談所調べ）あり、虐待は子どもたちを取り巻く身近な問題になっています。

京都府内での虐待については、主な虐待者は実の父母がその大半を占めています。虐待の内容としては、身体的な虐待（身体に外傷が生じ、または生じる恐れのある暴行）が百三十四件、ネグレクト（減食や長時間の放置など、保護者としての監護を著しく怠ること）が百二十二件あり、ほかにも心理的虐待（言葉による脅かしや、子どもを無視するなど）、性的虐待（わいせつな行為をすること。またはわいせつな行為をさせること）が合わせて三十七件となっています。また、虐待を受けた児童年齢

は乳児から十二歳までが二百三十件、十三歳以上で六十三件です。特に幼い子どもは自ら虐待されていることを訴えることが難しいため、地域で子どもたちを見守ることが、児童虐待の早期発見につながります。

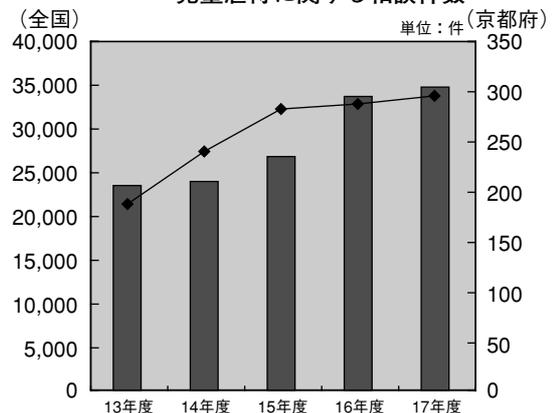
■南丹市における児童虐待の現状

現在、南丹市における市の福祉事務所や京都児童相談所への相談件数は、月に数件程度の状況です。しかし、子どもを取り巻く環境が厳しくなる中で、今後は南丹市でも虐待が発生する可能性があり、未然に虐待を防止できるように、南丹市児童虐待防止ネットワークを立ち上げました。

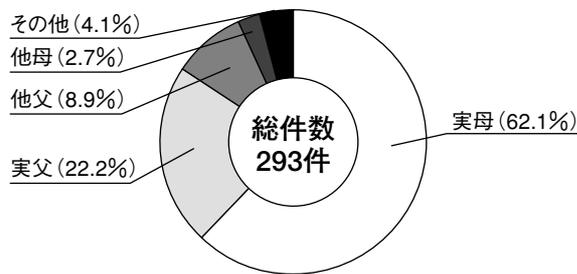
■南丹市児童虐待防止ネットワークの役割

南丹市児童虐待防止ネットワークでは、京都児童相談所、南丹保健所、船井医師会、京

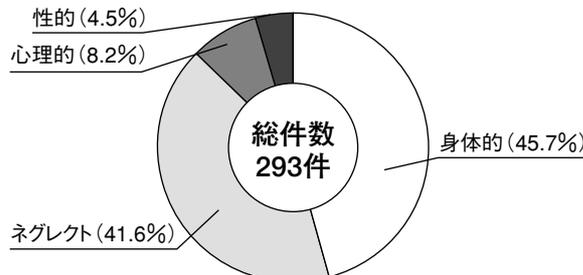
全国および京都府における児童虐待に関する相談件数



平成17年度 京都府内で起きた子どもに対する主な虐待者の割合



平成17年度 京都府内で起きた子どもに対する虐待内容の割合



	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
全 国	23,274	23,738	26,569	33,408	34,472
京都府	186	238	280	285	293

（京都児童相談所調べ）

命の重みをも 考えて

地域ぐるみで

南丹市児童虐待防止ネットワークは



▲京都学園大学川畑隆助教授による研修会

都地方務局、南丹警察署、京都中部広域消防組合、南丹市の社会福祉協議会や民生児童委員協議会、人権擁護委員、子育てすこやかセンター、保育所、幼稚園、小・中学校、教育委員会、市役所が連携し、児童虐待の防止と事象の発生に対応していきます。また、児童虐待の現状や、事象が起きた時の対応など、虐待に関する理解を深めるための研修会を開き、市民の皆さんが子育てや虐待に対する不安を解決していける体制を整えまします。

■虐待防止のための対策

虐待の予防策としては、一次、二次、三次という三段階があります。



▲虐待の防止対策などが話し合われました

一次予防は虐待発症前の予防です。児童の健全育成を推進することや、何らかの不安を抱えている家庭に対して援助できる仕組みの構築、また気軽に相談ができる体制を整備していくことです。

二次予防は、早期発見と対応です。虐待によって、死亡したり身体的な障害を持つようになったり、また精神的な障害や社会的不適応の状態になることも考えられます。虐待の影響を最小限にとどめ、虐待による心の傷の回復を図るためには、早期発見、早期対応が重要になります。

三次予防は虐待の再発防止です。

南丹市では、これらを各関係機関と連携して進めていき、安心して子育てのできるまちづくりに取り組んでいます。

■虐待の早期発見は地域の見守りが重要

虐待は主に家庭内で多く起こっています。そのため外部からは虐待が分かりにくいのが現状です。虐待をしている当事者が虐待をしている意識を持たなかったり、問題として認識していないことが多くあります。また、被害者の多くが就学前の子どもで、自分で虐待を訴えられなかったり、加害行為を行っている保護者や家族をかばう気持ちが生じたり、あるいは秘密にするように強要される場合もあります。これらを放置すれば、虐待は繰り返し、エスカレートする一方になります。

子どもや家庭に身近な人が、早期発見に努めることが虐待の防止につながります。そのためにも、地域の中で子どもを見守ることは大事です。

■虐待を受けている子どもはサインを送っています

虐待にはどんな場合にも不自然なことが感じられます。子どもの様子に変だな、と感じたら虐待の存在を疑ってみましょう。「しつけのつもり…」と思っても虐待につながっているかもしれません。虐待をしてしまう親も受けている子どもも、本当は助けを求めています。親や子どもの異変に気付いたら、周囲の誰かに相談しましょう。もしも虐待を発見したら、南丹市福祉事務所または京都児童相談所（子ども相談センター）に相談してください。相談を受けた福祉事務所や児童相談所は、相談の内容や相談された方についての情報を親などに教える事はありません。子どもの命を守るために、勇気をもって相談してください。

■相談窓口

京都児童相談所
（子ども相談センター）
☎（〇七五）四三二一三二七八
各支所健康福祉課または
市役所福祉事務所
☎（〇七七）六八一〇〇〇七



地域の安心・安全への第一歩

—南丹市消防団出初式—

一月七日、南丹市消防団の出初式をスプリングスひよし体育館で行い、市消防団から四百三十一人と消防ポンプ自動車など二十台が参加しました。

式典では、佐々木稔納市長が、「いつ起こるか分からない災害に対して、消防団として団結を高め、市民が安心して暮らせる消防団活動を進めたい」と式辞を述べたほか、京都府知事（代理）戸田雄一郎（京都府南丹広域振興局長）より「誰もが希望を持って生活できるよう、府民の安心と安全を守る消防団の活動に期待します」とあいさつがありました。

水は、雪の舞うあいにくの天候でしたが、団員らは日ごろの訓練の成果を出し、勇壮に放水を行いました。最後に参加者全員で万歳三唱を行い、火災や災害などから市民の生命と財産を守る地域防災活動の要として、地域の安心・安全を守る誓いを新たにしました。なお、被表彰者は次のとおりです。（敬称略）

また、京都府消防協会会長表彰および市長表彰、団長表彰、二十年勤続表彰、十年勤続表彰が行われ、責任感を持って献身的な消防団活動をしてきた団員をたたえました。

式典終了後の一斉放



▲団員の活動をたたえた表彰式

史▽黒田 英敏▽藤井 雅章

●精勤章

【園部支団】加舎 佐伯▽奥村 卓己▽木村 肇▽杉山 龍馬
▽河村 陸男▽竹内 宏
【八木支団】廣瀬 佳孝▽松本 直生▽高橋 安伸▽竹井 知

勝

【美山支団】奥本 浩二▽福本

龍二

【八木支団】池田 一哉▽松本

●精績章

【園部支団】和田 英樹▽井上

洋▽内藤 満

【美山支団】東 満

保彦

【八木支団】久世 満▽廣瀬

●勤功章

【園部支団】片山 智文

【美山支団】村田 文雄

京都府消防協会会長表彰

●功績章

市長表彰

【美山支団】工藤 吉幸▽大森 清輝▽岡本 哲爾▽大上 博次▽石川 保志▽東畑 久司



▲431人の団員が出初式に参加

【園部支団】桐野 博章▽阪田 和彦▽角 豪宏▽矢野 善大
▽内藤 吉治▽中野 学▽今 西 喜宣▽小西 臣治▽野々 口勝美
【八木支団】浅田 勇▽佐々木 達也▽廣瀬 実▽竹井 徹也
▽中川 政和▽小西 健一▽ 馬淵 健吉▽浅田 誠▽中川 英彰
【美山支団】近澤 幸次▽中野 誠▽武田 英喜▽中村 道啓
▽山崎 芳則▽山本由美子



▲雪の降る中で行われた一斉放水

団長表彰

【園部支団】 足立 伸二▽仲

勝▽平井 義信▽井尻 学▽

中井 善能▽佐野 英明▽西

村 吉史▽中西 秀晃▽小寺

栄輔▽井上 浩▽西田 和矢

▽片山 博之▽中井 保▽内

藤 正己▽原田 浩雄▽大西

一生

【八木支団】 木村 敦▽稲葉

昭博▽今西 敏晃▽川勝 経

義▽澤田 知幸▽川勝 正義

▽馬淵 和彦▽水口 敏明▽

大西 克則▽人見 康司▽永

田 昌文▽松本 貴宏▽竹野

直樹▽今福 直樹▽徳見 勉

▽石橋 康彦

【美山支団】 黒田 一郎▽山本

勝之▽小田切太初▽小倉 克

也▽藤原 誉▽岩谷 俊明▽

秦 洋祐▽西尾 晴夫▽西野

清一▽藤原 正昭▽大棚 正

樹▽松村 雅枝

二十年勤続表彰

【園部支団】 松井 治朗▽木戸

康博▽西田 広幸▽下間 勇

▽中井 忠司

【八木支団】 益田 武彦▽森山

悟志▽松本 英樹▽岡本 眞

雄▽今西 隆治▽伊勢 祥文

▽西河 良明▽谷口 隆則

【美山支団】 中島 勲▽福本

勝▽梶原 幸男▽岡本 寿成

▽川勝 直人▽谷 裕之▽井

栗 敏也▽伊藤 智之▽大澤

忠和▽小林 郁明

十年勤続表彰

【園部支団】 吉田 隆▽森 忠

司▽田中 正章▽内藤 朋治

▽野中 治樹▽田中 洋充▽

藤井 基▽大町 秀児▽東野

康洋▽内藤 康明▽坂矢 恵

太▽今西 喜宣▽今西 伸也

▽野村 昭夫▽林 哲也▽小

寺 博▽小寺 敏博▽楠川

浩之▽平田 研一▽片山 信

玄▽西田 俊彦▽竹島 達郎

▽奥村 隆憲▽中井 保▽塚

脇 健

【八木支団】 高橋 安伸▽竹井

知史▽澤田 知幸▽松本 則

明▽栗山 一也▽加藤 龍也

▽川勝 正▽藤原 祥喜▽齊

藤 広之▽村上 晃司▽中西

正良▽榎原 克幸▽松本 徹

▽明田 泰史▽徳山 憲司▽

徳山 隆司

【美山支団】 磯部 力▽藤元

浩二▽竹村 伸次▽崎野 幹

雄▽磯部 政宏▽菅生 薫▽

倉内 邦行▽能瀬 伸昭▽小

畑 幸洋▽上仲 健資▽下田

真徳▽尾上 敦史

また二月四日、国立京都国

際会館において、平成十八年

度京都府知事表彰式が行われ、

消防活動に関して功労のあつ

た消防吏員、消防団員および

消防機関などからおよそ百八

十人が参加しました。

南丹市からも消防団活動に

功労のあつた十七人が表彰を

受けました。

なお、被表彰者は次のとお

りです。(敬称略)

京都府知事表彰

●功労章

【園部支団】 内藤 武

●永年勤続功労章

【園部支団】 松井 治朗▽上田

実

【八木支団】 松崎 和幸

【美山支団】 名古 高広

●精励章

【園部支団】 小寺 祐人▽谷口

博之▽吉田 隆▽奥村 隆憲

【八木支団】 浅田 康寛▽谷

英樹▽岡本 眞雄▽今西 正明

【美山支団】 仲江 覚▽野谷

正行▽小原 昭雄▽梅津 博英



晴れやかに二十歳の門出を祝う

—南丹市発足後初の成人式—

昨年までは旧町で行われていた成人式を一月八日、「南丹市成人式」として南丹市園部公民館で行い、当日は三百五十六人の新成人が出席して晴れやかに門出を祝いました。



▲南丹市初の成人式に多くの新成人が参加

今年の南丹市成人式の対象者は、昭和六十一年四月二日から昭和六十二年四月一日生まれで南丹市内に住民登録および外国人登録のある方で四百八十人（園部町二百六十八人・八木町九十九人・日吉町六十三人・美山町五十人）が招待されたほか、南丹市内の



▲記念品を受ける廣瀬和摩さん

小・中学校の卒業生や、南丹市から転出した方で南丹市で成人式を希望される方なども対象としました。
式典には、京都府や南丹市議会から多くの来賓と、小・中学校時代の担任の先生方など多数出席され、新成人を盛大に祝いました。
式典は三部構成で行われ、一部の式典では勝田正巳教育委員会委員長の開会宣言の後、佐々木稔納市長が「ふるさと



▲誓いの言葉を発表する美馬奈穂子さん

新成人に 将来の夢を 聞きました

高校生の時から、児童福祉のボランティアをしていて、将来は地元南丹市で児童福祉の仕事に就きたいと考えています。



谷川 雄大さん(園部町)

テレビディレクターを目指して勉強しています。将来は、南丹市の素晴らしさを多くの人に知ってもらえる番組が作りたいです。



井上さやかさん(八木町)

「南丹市」に誇りと愛着を持って、それぞれの夢に向かって努力をし、豊かな人生を歩んでください」と式辞を述べた後、南丹市より記念品として「織部飛ばしペアビアカップ」を出席した新成人に贈りました。

また、新成人を代表して美馬奈穂子さんが「お互いの絆を大切に、夢と希望に向かって一歩一歩進んで行きたい」と成人となった抱負と決意を述べました。

二部ではアトラクションとして、新成人が生まれた昭和六十一年から現在までの二十一年間に起こった出来事をまとめたビデオが上映され、当時に流行したのものや、社会の動きなどに、参加者らは自分の幼いころを懐かしんで見えました。

三部では、参加者が七班に分かれて記念写真の撮影を行い、その後は各地域ごとに懇親会の場を設け、友人との久しぶりの再会を喜び合う姿や、恩師らと思い出話をするなど、会場はすがすがしい笑顔があふれていました。

二十歳の決意を新たに記念撮影



▲記念撮影（美山町）

日本一のイタリアンシェフを目指して、修行の毎日です。将来は日本を代表するような料理人になるのが夢です。



増田 純平さん（日吉町）

ブライダルコーディネーターになるために学校に通っています。人のために、何か役立つような仕事ができる人になりたいです。



吉田 香澄さん（美山町）





▲記念撮影（八木町）



▲記念撮影（八木町）



▲記念撮影（日吉町）



▲記念撮影（園部町）



▲記念撮影（園部町）



▲記念撮影（園部町）



元交換学生との再会に喜びもひとしお

—園部ロータリークラブ創立25周年—



▲ホストファミリーとの再会に会話がはずみます

園部ロータリークラブが創立二十五周年を迎え、昨年十二月十三日、南丹市長（代理 仲村助役）ら来賓百二十人と会員らが集い、京都市のホテルで記念例会が行われました。園部ロータリークラブは創立まもなく国際交流の輪を広げようと、青少年交換事業を始められました。これまでにアメリカやヨーロッパ諸国などからの留学生十五人を受け入れ、地元の高校生十五人の派遣を行われました。この日は二十五周年を記念して、海外から元交換学生らもお祝いにかけて、当時のホストファミリーらと再会し思い出話に花を咲かせていました。

一月四日、南丹市国際交流会館イベントホールで、船井青年会議所主催の「第二十四回新春賀詞交換会」が、南丹市と京丹波町からおよそ二百人が参加して行われました。式では、船井青年会議所八田理事長が「若さと想像力で、新しい社会を築いていきたい」とあいさつをされました。その後、「よりよい地域になるために求められる事とは」と題したパネルディスカッションでは、佐々木稔納市長らが地域の特徴を生かしたまちづくりの取り組みを紹介しました。



▲決意を述べられる八田理事長

平成十九年の

新年を祝う賀詞交換会

—新春賀詞交換会—

青少年の健全育成に貢献
—京都府青少年健全
育成功労者等表彰—
京都府が青少年の健全育成に多大な功績のあった個人や団体を表彰する「平成十八年度京都府青少年健全育成功労者等表彰」で、南丹市美山町在住の下野良二さんが知事表彰を受けられ、昨年十二月二十五日、京都府公館において表彰式が行われました。
下野さんは、美山町大野地域で、公園の花壇づくりや清掃活動、自然体験学習を地元の子どもたちと展開している「緑の少年団」の団長として、地域の子どもたちの健全育成に貢献されました。



▲知事表彰を受けられた下野良二さん

株式会社「虎屋」は和菓子製造販売の大手企業として事業を展開されており、現在、京都市にある京都工場の機能を新工場へ移転し、西日本における拠点工場とされます。新工場は今年秋に完成する予定で「丹波大納言小豆」など地元の農産物を生かした商品作りが行われる予定です。

新工場建設の安全と

地域の発展を願う

—虎屋新工場起工式—

昨年十二月二十日、八木町北広瀬で建設が進められている虎屋新工場予定地で起工式が行われ、佐々木稔納市長や京都府職員、市職員ら関係者およそ三十人が出席しました。



▲工場の安全が祈願されました

Information お知らせ

国民健康保険加入者の方に お知らせします

平成十九年四月一日から国民健康保険の
被保険者証が変わります。

現在、南丹市の国民健康保険に加入されている方がご使用の被保険者証の有効期限は、平成十九年三月三十一日までとなっております。平成十九年四月一日からは新しい被保険者証（一般被保険者の方は「クリーム色」、退職被保険者の方は「うぐいす色」）に変わります。
新しい被保険者証については、三月下旬に各世帯に郵送します。

被保険者証の色が
一般被保険者「クリーム色」
退職被保険者「うぐいす色」
になります。

有効期限 平成20年3月31日

国民健康保険 被保険者証		有効期限 平成20年 3月31日	
I-号 南丹		番号 12345678912	
氏名	〇〇 太郎	性別	男
生年月日	昭和〇〇年〇〇月〇〇日		
世帯主氏名	〇〇 一郎		
住所	南丹市園部町小桜町47		
被保険者証交付日	昭和〇〇年〇〇月〇〇日		
被保険者証交付日	平成19年 4月 1日		
被保険者番号	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇		
被保険者名	南丹市		

交付年月日 平成19年4月1日

保険税の納め忘れは
ありませんか？

国民健康保険制度は私たちが病気やケガをしてお医者さんにかかった時、いつでも安心して医療を受けられるよう加入者が普段からお金を出し合い、医療費などにあて、お互いを助け合うことを目的とした制度です。

この制度を運営するための財源としては、国などからの支出金と加入者の皆さんにご負担いただく保険税がその主な財源となっております。その貴重な財源である保険税を納めていただかないと国民健康保険の運営ができなくなります。

そうしたことから、加入者間の負担の公平を図るため、平成十二年四月一日から国民健康保険法などの一部改正により保険税を納めていない世帯に対する滞納者対策の強化が図られ、特別な事情がなく滞納している世帯についてはその未納期間などに応じて次のような措置をとらせていただく場合がありますので、保

険税の納め忘れがないかよく
お確かめください。

- ① 一般に発行する証より有効期間を短くした被保険者証を交付する場合があります。
- ② 納期限から一年以上保険税を全く納付されない場合、被保険者証を返していただき、代わりに「被保険者資格証明書」を交付します。その場合、お医者さんでかかった医療費用は全額自己負担となります。

なお、納付が困難な場合は、納付方法など相談に応じますので、未納のままにせず市役所市民課（〇七七一一六八―〇〇〇五）または各支所健康福祉課までご相談ください。

国民健康保険税は
必ず納期内に
納めましょう

いきいき南丹

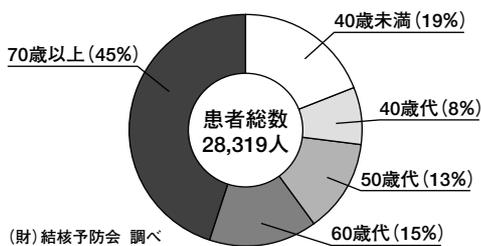
-11-

お元気ですか?
保健師です。



風邪のようで風邪じゃない その“せき”結核ではありませんか？

平成17年度
全国の結核患者の年齢ごとの割合



昭和初期には国民病として猛威を振るった結核も、栄養状態や衛生状態の改善、医療の進歩などに伴い過去の病気として忘れ去られるようになりました。しかし、わが国では近年、主に高齢者の中で再び結核が急増しています。

昭和中期には国民病として猛威を振るった結核も、栄養状態や衛生状態の改善、医療の進歩などに伴い過去の病気として忘れ去られるようになりました。しかし、わが国では近年、主に高齢者の中で再び結核が急増しています。

■風邪のようで風邪じゃない

症状が風邪に非常に良く似ているため、気付かないで病状が悪化し、他人に感染させたりすることが少なくありません。咳やたん、微熱・倦怠感・食欲不振・やせる・胸痛などの症状のときは結核を疑いましょう。

風邪かな？と思っても、

乾いた咳が二週間以上続く・風邪がなかなか治らないなどの症状の時は、早めに病院で検査をしてください。

■高齢者は特にご用心

(財)結核予防会によると全国で平成十七年度に、新たに結核にかかった人の四十五割が七十

歳以上です。また、南丹保健所管内では新たに治療を受けている三十八人のうち、六割以上が七十歳以上です。

高齢の方は、結核流行時を経験していて、すでに若い頃に結核に感染している人が多く、体力・抵抗力が低下した時に、眠っていた菌が目覚まし発病しやすくなります。反対に、若い世代の多くは結核に未感染のため、菌を吸い込むと感染しやすく、学校や職場では

一人の患者から多くの人に感染させてしまい、集団感染の危険性が高くなっています。

■結核の検診を受けましょう

結核の感染を発見する機会を、医療機関での受診が一番多く、次いで職場での健診や市民健診などによるものです。特に高齢者の結核では、先に示した症状が出ず、多くの人に感染させる場合があります。症状が無く

でも年に一回は、レントゲン検査を受けましょう。

■結核は治る病気です

万一、結核を発病しても約半年から一年、薬による規則的な治療を受けることで治る病気です。しかし、症状がなくなったからと服薬を勝手に中断する人が多く、その間に菌が耐性を持つてしまい、治療が困難になることがあるので注意が必要です。

今でも、日本国内で毎日八十人の新しい結核患者が発生し、六人が亡くなっています。結核を自分自身の問題として今一度考えてみませんか。

3月24日は世界結核デーです。

●家庭で出来る予防法

- 睡眠時間を十分にとる
- 適度にスポーツをする
- 好き嫌いせずバランスのとれた食事をする

●こんな時はすぐ病院へ！

- 長引く咳(2週間以上)
- たんが出る
- 長引く微熱
- 長引く倦怠感(体がだるく、活力が出ない)
- 胸痛
- 体重減少



ぶらり

なんたん ⑫

あしう 美山 芦生山の家

秘境の森が育んだ、自然の息吹を感じる家

美山のかやぶきの里を越え、唐戸溪谷の山あいを抜けると由良川の清流がますます透明度を増していきます。

芦生の森は、四千鈔を超える広大な京都大学の研究林で、絶滅が心配されるアシウテンナンショウなどの学術上貴重な植物やツキノワグマなどの動物が生息しています。世界遺産への登録も検討されたほど、大自然のエネルギーが満ちあふれた空間です。

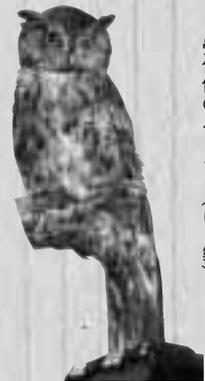
この芦生の森の玄関口にたたく「芦生山の家」は、平成十三年に美山の木材を使って改装され、木の香りと優しさが漂う落ち着いた山小屋風の宿泊施設です。エントラン



▲木の香りが広がるくつろぎの空間

原生林の散策や写真撮影を目的に訪れる方の利用が多く、散策ツアーやガイドも事前に電話で予約できます。(入林に際しては、芦生研究林事務所の手続きが必要ですよ)

スホールから二階へと続く階段や廊下には、原生林の動物や風景の写真が展示され、訪れる人々の心を芦生の森へと誘います。客室は、畳が落ち着く和室と、木製二段ベッドの洋室があり、いずれも清潔感と温かさが伝わってきます。食事は、芦生なめこや美山の平飼い地鶏の料理など地元産の食材が味わえます。大人一泊二食付で七、三五〇円。



◀受付係のふくろう(はく製)

ぶらり案内



館長 今井 崇さん

取材で初めて訪れた芦生の雄大さには圧倒されました。そして、芦生山の家館長の今井崇さんにお話を伺う中で、この自然の宝庫を大切に守り育てて、後世へ引き継いでいこうとされる、この地で暮らす人々の懸命な思いが伝わってきました。今井さんは、有限会社芦生の里(以前の芦生なめこ生産組合)の取締役であり、きのこや山菜の食品加工、美山の木材家具づくりなどにも携わっておられます。冬期は一面が雪に覆われる芦生ですが、春先から晩秋にかけては季節ごとの野草観察や散策に、身近に存在する秘境の森を訪れてみてはいかがでしょうか。



▲施設全景

美山 芦生山の家
 TEL (0771) 77-0290 FAX (0771) 77-0368

- ◆住所：南丹市美山町芦生須後13番地
- ◆交通：府道19号線を美山方面へ。上平屋を右折(国道162号へ)し、安掛を左折(府道38号線へ)。かやぶきの里を越えて車で約30分。※休館日、利用料金、設備など詳しいことはお問い合わせください。

南丹地域の子育て支援センターや子育てボランティア・サークル活動団体の方々が中心となり、子育て中の家庭にさまざまな情報や親子の遊び場を提供する「子育て応援フォーラム」が開催されました。会場となった南丹市国際交流会館では、ステージや遊びのブース、情報展示、相談コーナーに分かれ、音楽を全身で感じて表現する親子リトミックや太鼓演奏、竹ぼっくり作りや魚釣りゲーム、人形劇やお話し会、環境クイズラリーなどを楽しむ家族で賑わいました。

〔12/10・なんたんわくわく子育て応援フォーラム・園部町〕

「楽しい遊び場で子育てを応援！」



▲魚釣りゲームなどに夢中で遊ぶ子どもたち

「寒さに負けるな！
元気にジョギング」

〔1/28・大堰川ジョギング大会・八木町〕

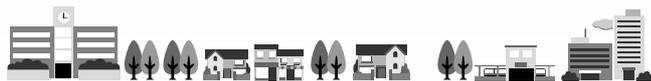


▲自分のペースで楽しく快走

南丹市八木運動公園で、ジョギングをしながら大堰川沿いの冬の景色を楽しむ大堰川ジョギング大会（NPO法人八木町スポーツ協会主催）が行われました。2.3kmと5kmを走るロードレースの部と、1.5kmを走るファミリージョギングの部に約200人が参加し、寒風の吹く中を沿道からの温かい声援を受けながらジョギングを楽しみました。ゴール後は地元婦人会の皆さんが用意した「大堰川なべ」が振る舞われ、参加者はアツアツのなべを食べて体を温めていました。

みんなのひろば

まちの話題を 紹介します



身近な話題を広報係(0771)68-0003へお寄せください。

「手紙でむすぶ家族大賞」^{メール}で知事賞

〔京都発！手紙でむすぶ家族ふれあい大賞・京都府〕

家族のきずなを深めることを目的に、家族同士の手紙を表彰する「京都発！手紙でむすぶ家族ふれあい大賞」（京都府主催）で、南丹市美山町の小林善恵さん（50）・のぞみさん（8）親子の作品が1,400点の応募の中から京都府知事賞に選ばれました。

善恵さんは昨年4月に急逝された夫に触れ、「お父さんは無事天国に着いたよ。いつ^{まで}も見守ってくれるから安心して！」と書き、娘ののぞみさんは「天国で何しているかな？大人になったら生き返る薬を發明して送るから飲んでなあ！成人式見に来てやあ」と返事を出しました。

表彰式は1月14日に京都府公館で行われたほか、入賞作品については、3月に作品集が発行されることとなっています。



▲知事賞に選ばれた小林善恵さん・のぞみさん



▲号砲を合図に一齐にスタート

南丹・船井中学校体育連盟主催の第2回南丹・船井中学校ロードレース大会が、丹波自然運動公園で行われ、南丹市内と京丹波町内の中学校8校の1・2年生130人が参加し、男子3km、女子1.5kmの運動公園内のコースを走りました。厳しい寒さの中での大会となりましたが、選手たちは自分の力を出し切ってタイムを競い、男子は園部、女子は蒲生野が優勝しました。

「仲間の声援を受け健脚を競う」

(1/27・第2回南丹・船井中学校ロードレース大会・京丹波町)

今回で16回目となる園部町文化協会（高木茂会長）恒例の新春席書大会が南丹市園部公民館で行われ、家族連れやお年寄りら約50人が参加しました。大会では、小学1年生から6年生、中学生、一般の年代ごとに当日発表された「たこ」「竹うま」などの課題に取り組みました。出来上がった作品は、1月15日のそのべとんどまつりで書の上達を願い、炎にかざされました。



▲気持ちを落ち着かせて筆を進める

「新たな気持ちで書き初め」

(1/6・新春席書大会・園部町)

「未来に残したい平屋のものを取材」

(12/14・平屋小学校国語学習・美山町)



▲小林家住宅を取材する児童と佛大学生

平屋小学校では、4年生児童が佛教大学と連携し、「未来に残したいもの」をテーマに、地元平屋にしかないものを地域の人に取材する研究学習を行いました。児童は4班に分かれ、佛教大学の助教教授や学生らの引率・指導の下、美山の水・食材で作るパン屋やかやぶき住宅の現地取材、植林や地元で伝承される京の伝統野菜「大内かぶ」の調理などをしました。取材終了後には、聞き取りした内容や学んだことを作文にまとめました。

「お正月を迎える、昔の生活体験」

(12/25・なんたんわくわくキッズ・日吉町)

南丹市教育委員会では、昔から行われてきた迎春の準備を子どもたちに体験してもらおうと、「なんたんわくわくキッズ」を日吉町郷土資料館で行い、市内の小学生30人が参加しました。

参加者らは地元の方に教えてもらい、悪戦苦闘しながら用意されたわらを束ね、新年への思いを込めた「しめ縄」を作っていました。

その後、もちつきが行われ、自分たちでついて丸めたもちを、おなかいっぱい食べていました。



▲しめ縄で正月飾りを作る子どもたち

なんたん歳時記

-13-



そのべ
「とんどまつり」
—園部町—

とんど(どんど)は小正月(二月十五日)に、門松、竹、しめ縄などを集めて燃やし、その火で無病息災や書の上達を祈願する新年の行事として各地で行われていましたが、年々この行事も行われることが少なくなってきました。

南丹市園部町では、昭和五十七年にこの伝統行事を地域の輪づくりとふれあいの祭りにしていこうと、旧園部町と商工会が復活させ、以来毎年多くの方でにぎわいます。

園部公園内広場に高さ約六メートルに青竹と杉が組まれ、火が付けられます。勢いよく燃え上がる炎に、長い竹の先に付けた書き初めをかざし、天高く舞い上がると、子どもたちは歓声をあげて喜びます。

大寒間近の身を切るような寒さの中でしたが、会場で振る舞われたぜんざいと、みんなの願いが込められたとんどの炎に、会場はあたたかい雰囲気になっていました。



わが家の
アイドル

●園部町

山口

ゆな 優奈ちゃん (4歳5ヵ月)
さと 聡菜ちゃん (1歳3ヵ月)

「ずーっと仲よし姉妹でいてね」

(パパ・ママより)

編集後記

広報「なんたん」を発刊して一年を迎えました。この一年で、市内のいろいろな行事やイベントを取材させていただきました。あらためて南丹市が今まで培ってきたさまざまな地域づくりと豊かな自然に、ふるさと「南丹市」の素晴らしさを感じました。この気持ちを大切にしながら、市民の皆さまにもっと親しんでもらえるような広報を目指します。

(S)



- 総人口：36,064人 (-83)
(男：17,310人・女：18,754人)
(-52) (-31)
- 世帯数：13,496世帯 (-53)

(平成19年2月1日現在)
()内は前月比

写真掲載の応募をお待ちしています。(応募数によっては順番待ちになることがあります) 詳しくは企画情報課秘書広報係まで

広報
なんたん

編集・発行：南丹市役所 総務部企画情報課
〒622-8651 京都府南丹市園部町小桜町47

TEL：0771-68-0003 FAX：0771-63-0653
URL：http://www.city.nantan.kyoto.jp
e-mail：kikaku@city.nantan.kyoto.jp



本紙は環境への配慮から、古紙100%の再生紙に、ソイインキ(大豆油)で印刷しています。